

2016 年度阿部県政スタート

報告書

(2016年4月1日～3日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	3
III	調査の概要	4



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

2016（平成28）年度阿部守一県政がスタートした。4年目に入る「長野県総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン）」に加え、国の地方創生策に基づき15年度に策定した「長野県人口定着・確かな暮らしの実現総合戦略～信州創生戦略～」も具体化の段階だ。

計画や戦略を実際に担う県民が、その中身や課題をどう見ているのか。人口減少社会で活力をどう高めていくのか、県民の声や意識を電話で聞いた。

◆調査の設計

▽調査対象	県内に住む20歳以上の男女800人
▽抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに20代～70歳以上の6つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
▽調査方法	個別電話聞き取り・RDD（ランダム・デジット・ダイヤリング）法で実施。コンピューターで無作為に発生させてかける電話調査法で、電話帳に番号を載せていない人も調査できる。無作為に発生させた番号のうち、設定した年代・性の人を選び、目標の800人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
▽調査地点	19市9町6村
▽調査時期	2016年4月1日～3日
▽有効回答	817人（男性 361人 女性 456人）

<注>

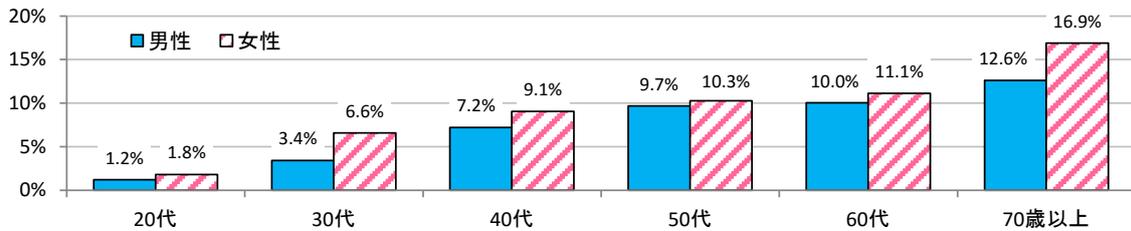
①報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

②見出しのパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入した。

◆サンプルの内訳

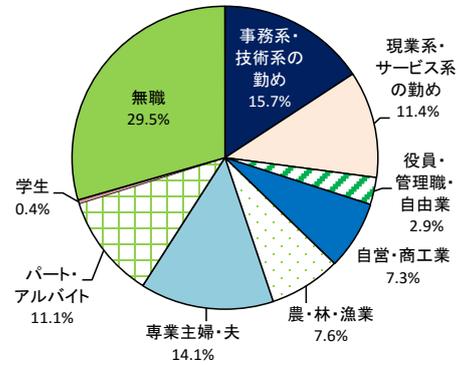
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	817	25	82	133	163	173	241
	100.0%	3.1%	10.0%	16.3%	20.0%	21.2%	29.5%
男性	361	10	28	59	79	82	103
	44.2%	1.2%	3.4%	7.2%	9.7%	10.0%	12.6%
女性	456	15	54	74	84	91	138
	55.8%	1.8%	6.6%	9.1%	10.3%	11.1%	16.9%



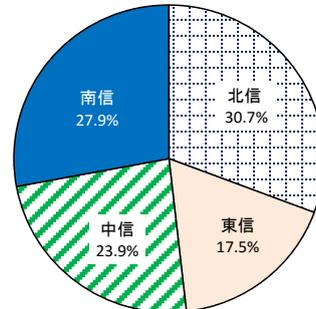
【職業】

事務系・技術系の勤め	128	15.7%
現業系・サービス系の勤め	93	11.4%
役員・管理職・自由業	24	2.9%
自営・商工業	60	7.3%
農・林・漁業	62	7.6%
専業主婦・夫	115	14.1%
パート・アルバイト	91	11.1%
学生	3	0.4%
無職	241	29.5%



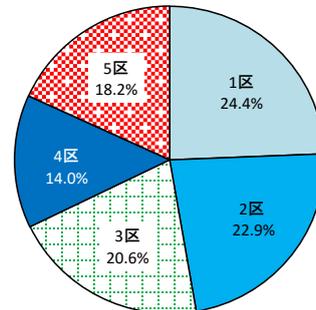
【地域】

北信	251	30.7%
東信	143	17.5%
中信	195	23.9%
南信	228	27.9%



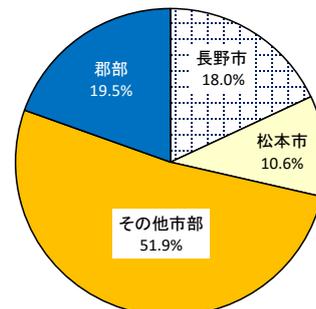
【選挙区】

1区	199	24.4%
2区	187	22.9%
3区	168	20.6%
4区	114	14.0%
5区	149	18.2%



【市郡】

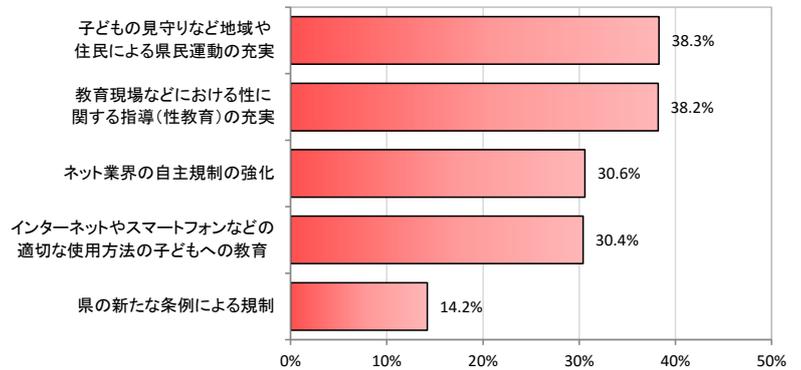
長野市	147	18.0%
松本市	87	10.6%
その他市部	424	51.9%
郡部	159	19.5%



II 調査のポイント

◆子どもの性被害を防ぐために「県民運動」と「性教育」を優先

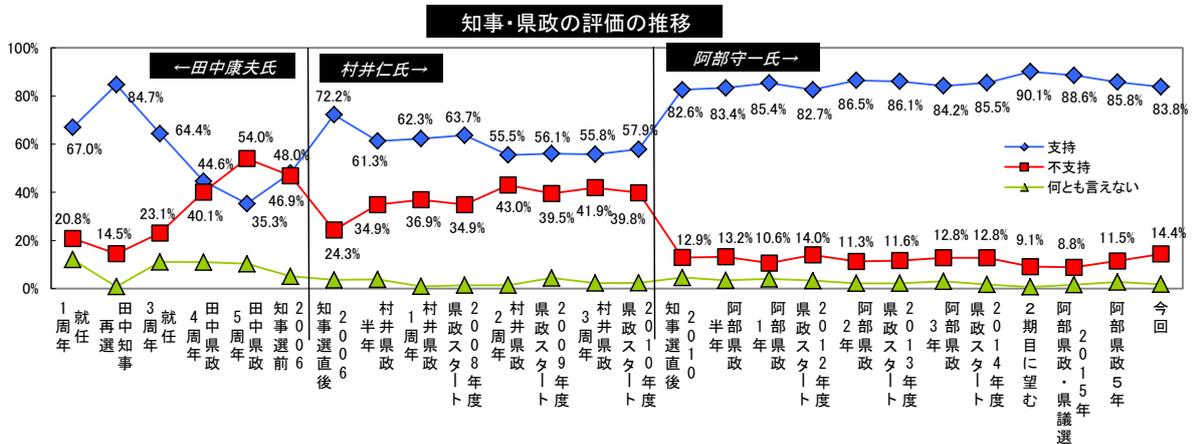
子どもを性被害から守るために、県は処罰規定を盛った条例制定の方針を明示し県民から意見を求めている。条例制定を含む5つの選択肢を提示して導入すべき施策(2つ以内)を聞いたところ、「子どもの見守りなど地域や住民による県民運動の充実」38.3%、「教育現場などにおける性に関する指導(性教育)の充実」38.2%が並び、「県の新たな条例による規制」は14.2%で最も少ない。



また大北森林組合による補助金不正受給事件では、県の職員聞き取り調査を不十分だと思っている人が7割を超えている。

◆阿部知事の支持率 83.8%、高水準を維持

阿部知事の支持率は「支持する」41.1%、「どちらかといえば支持する」を合わせ83.8%、前回調査(「阿部県政5年」、昨年8月)より2ポイント減だが、いぜん80%以上の高水準を維持している。男女、年代、地域、支持政党別でも高い支持率は共通となっている。



01年 02年 03年 04年 05年 06年 06年 07年 07年 07年 08年 08年 09年 09年 10年 10年 10年 11年 11年 11年 12年 12年 12年 13年 13年 14年 14年 15年 15年 16年
 10月 9月 9月 9月 9月 9月 8月 2月 8月 4月 7月 4月 9月 4月 2月 8月 2月 8月 2月 8月 4月 8月 4月 8月 4月 8月 3月 8月 4月
 1200 1000 1000 1200 1000 1000 800人 1000 1000 1000 1000 1000 800人 808人 803人 806人 812人 807人 810人 820人 815人 810人 818人 812人 817人
 人

<注>田中県政当時は「なんともいえない」を郵送調査(〒)のみ選択肢として明示

	01年 10月	02年 9月	03年 9月	04年 9月	05年 9月	06年 6月	06年 8月	07年 2月	07年 8月	08年 4月	08年 7月	09年 9月	09年 9月	10年 4月	10年 8月	11年 2月	11年 8月	12年 4月	12年 8月	13年 4月	13年 8月	14年 4月	14年 8月	15年 3月	15年 8月	今回
支持する	36.6%	50.5%	29.7%	15.1%	11.6%	14.1%	35.9%	20.6%	19.6%	22.4%	17.8%	15.9%	16.0%	26.1%	40.5%	39.7%	35.5%	27.5%	32.2%	35.7%	41.0%	37.8%	43.8%	46.8%	40.1%	41.1%
どちらかといえば支持する	30.4%	34.2%	34.7%	29.5%	23.7%	33.9%	36.3%	40.7%	42.7%	41.3%	37.7%	40.2%	39.8%	31.8%	42.1%	43.7%	49.9%	55.2%	54.3%	50.4%	43.2%	47.7%	46.3%	41.8%	45.7%	42.7%
どちらかといえば支持しない	10.1%	8.0%	11.4%	17.5%	18.0%	25.9%	14.0%	24.6%	24.9%	24.6%	30.7%	28.7%	28.7%	21.3%	8.4%	9.3%	7.9%	10.6%	8.2%	9.1%	8.9%	9.0%	6.4%	6.5%	7.9%	9.7%
支持しない	10.7%	6.5%	11.7%	22.6%	36.0%	21.0%	10.3%	10.3%	12.0%	10.3%	12.3%	10.8%	13.2%	18.5%	4.5%	3.9%	2.7%	3.4%	3.1%	2.5%	3.9%	3.8%	2.7%	2.3%	3.6%	4.7%
なんともいえない わからない	12.0%	0.8%	11.1%	11.0%	10.3%	5.1%	3.6%	3.8%	0.9%	1.4%	1.4%	4.4%	2.3%	2.4%	4.6%	3.4%	4.0%	3.3%	2.2%	2.3%	3.0%	1.7%	0.7%	2.6%	2.7%	1.8%
不明	0.2%	-	1.3%	4.3%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

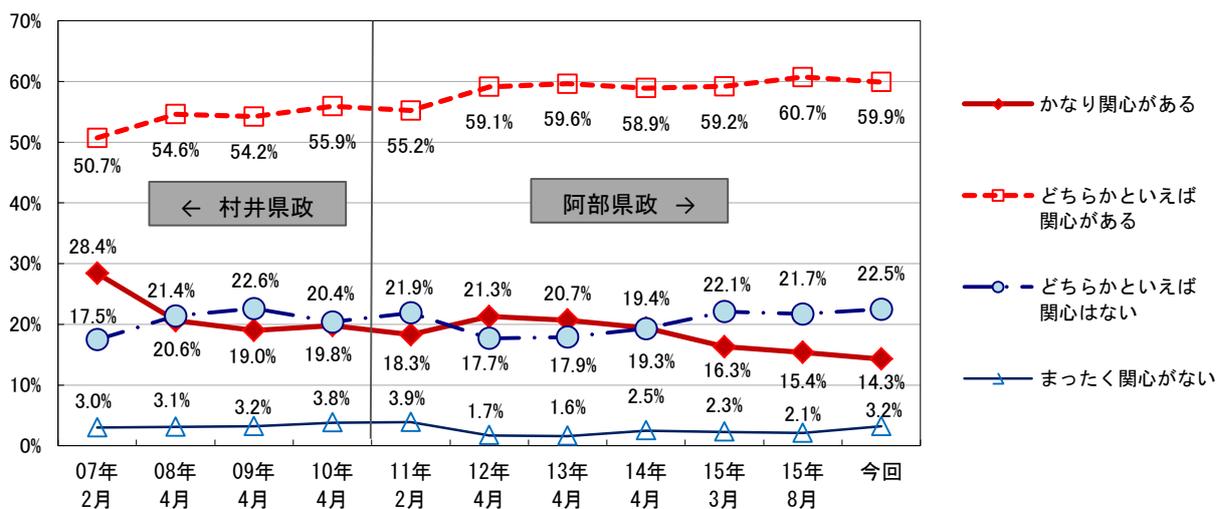
Ⅲ 調査の概要

県政への関心 (問1)

◆「関心がある」74%

県政に「かなり関心がある」14.3%、「どちらかといえば関心がある」59.9%を合わせ、関心を持っている人が74.2%と、阿部県政になってからほぼ同じ水準が続いている。年代別では高年齢層ほど高い傾向があり70歳以上82.1%に対し、20代は52.0%（サンプル数が少ないので参考値）と30ポイントの開きがある。

職業別では自営・商工業が90.0%と一段と高い。

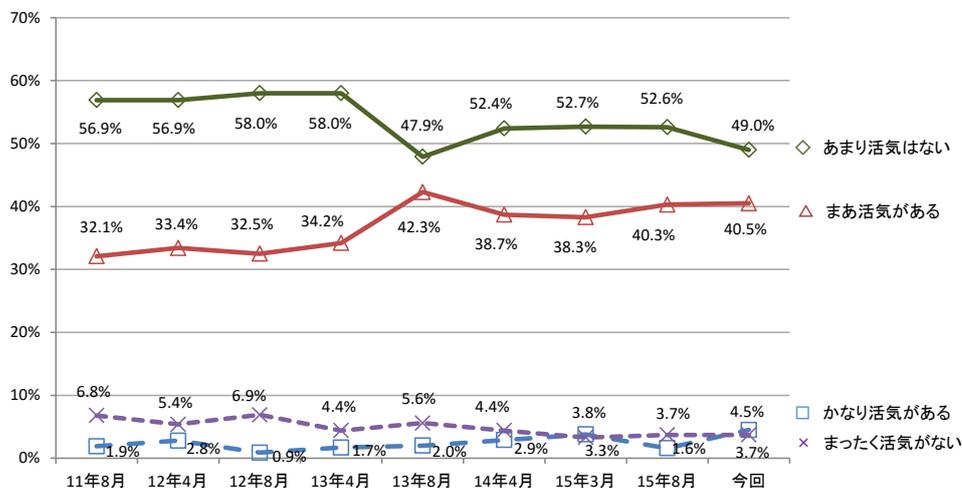


長野県経済や暮らし向きの現状 (問2)

◆「活気がある」微増の45%

継続して聞いている長野県の経済や県民の暮らし向きの現状は「活気がある」と思っている人は全体で45.0%、昨年夏の「阿部県政5年」調査より3ポイント増だ。しかし「活気がない」と思っている人はいぜん過半数の52.7%で、特に50代と20代は60%を超える。

「活気がない」は職業別で役員・管理職・自由業(83.4%)、地域別では東信(59.4%)が他に比べ厳しい見方をしている。

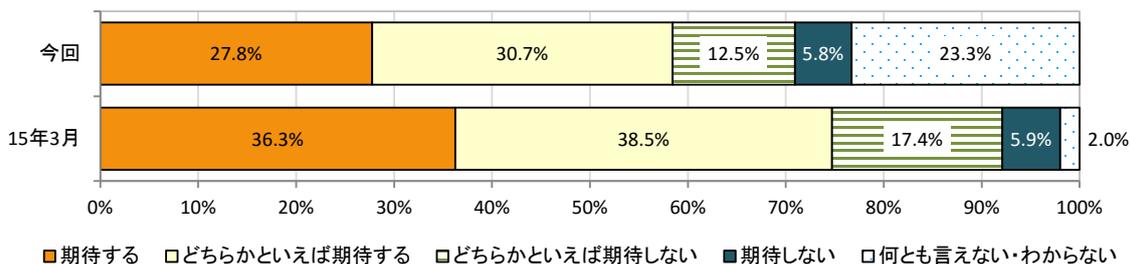


◆信州創生の「総合戦略」 6割近くが期待感

県が2015年度に策定した「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略～信州創生戦略～」について「期待する」27.8%、「どちらかといえば期待する」30.7%を合わせ期待感は58.5%で、「期待しない」の計18.3%を大きく上回る。

期待感は20代、40代、60代、70歳以上が6割超と高く、30代と50代は50%前後とやや低い。地域では中信(64.1%)・東信(63.0%)が南信(55.2%)・北信(54.6%)より高い。

ただ昨年3月「2015年度阿部県政・県議選」調査で、総合戦略策定前に聞いた期待感と比べると16ポイント余ダウンした。



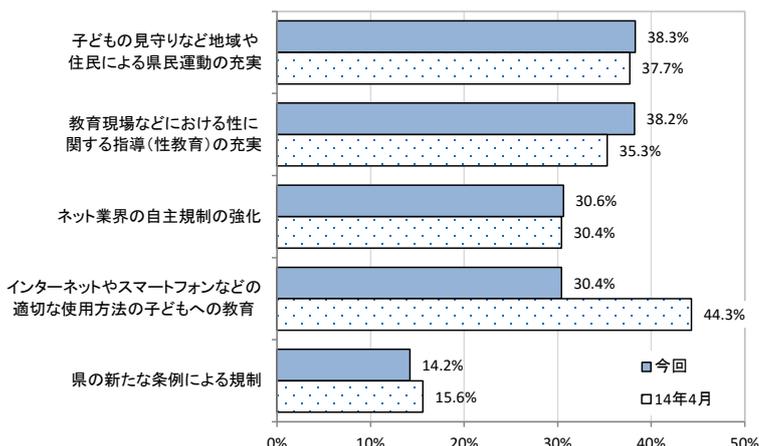
◆子どもの性被害を防ぐ施策 「県の条例」要望は14%と少数

子どもを性被害から守るため、県は取り巻く環境が変化し取り組みの強化が必要と処罰規定を盛った条例制定の方針を示し、県民的な議論を進めることが望ましいとしている。2月県会や県民との意見交換では賛否両論だった。

性被害を防止するために強化したり、導入すべき施策は何か聞いたところ(2つ以内)、調査のポイントで示したように「子どもの見守りなど地域や住民による県民運動の充実」と「教育現場などにおける性に関する指導(性教育)の充実」が38%台で並び、「ネット業界の自主規制の強化」30.6%、「インターネットやスマートフォンなどの適切な使用方法の子どもへの教育」30.4%と優先順位が出ている。「県の新たな条例による規制」は14.2%と5つの策の中では最も少ない。

男女、年代、職業、地域で見てもほぼ共通認識だ。

「2014年度阿部県政スタート」調査(14年4月)でも同じ選択肢で聞いたが、「インターネットやスマートフォンなどの適切な使用方法の子どもへの教育」が44.3%で最も多く、「子どもの見守りなど地域や住民による県民運動の充実」が37.7%など、4項目がいずれも30%を超えていたのに対し「県の新たな条例による規制」は15.6%と最少だった。

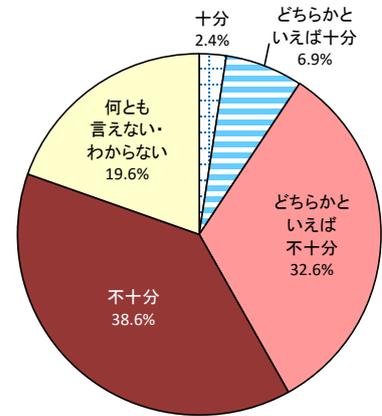


◆補助金不正受給事件 県の聞き取り調査「不十分」7割

大北森林組合の補助金不正受給事件で、県警は、組合が架空の事業で国の補助金を申請したと知りながら、補助金交付の手続きをしたとして、県職員1人を補助金適正化法違反の疑いで書類送検した（起訴猶予）。県側は職員への聞き取り調査を基に「職員が組合の全くの架空申請を容認したとは考えていない」と説明している。

この県側の職員聞き取り調査について聞いたところ、「十分」2.4%、「どちらかといえば十分」6.9%で、十分だと思う人は9.3%に過ぎない。「どちらかといえば不十分」32.6%、「不十分」38.6%を合わせ、不十分だと思っている人が71.2%に上る。

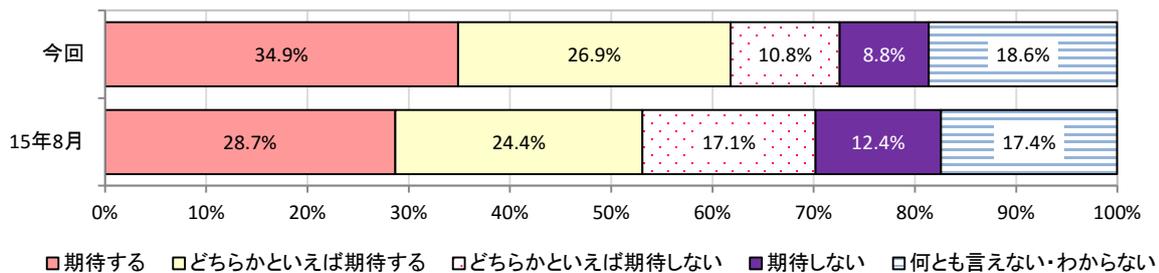
「不十分」は40代以上がすべて7割以上で、男性（75.9%）、役員・管理職・自由業（83.4%）、自営・商工業（76.6%）、無職（76.4%）、南信（76.8%）、東信（75.6%）が高い。



◆長野県立大学 期待感は62%

グローバルマネジメント学部と健康発達学部の2学部定員240人で、2018年4月に開学する長野県立大学に「期待する」34.9%、「どちらかといえば期待する」26.9%と期待感61.8%、昨年夏の調査に比べ8.7ポイント上がった。

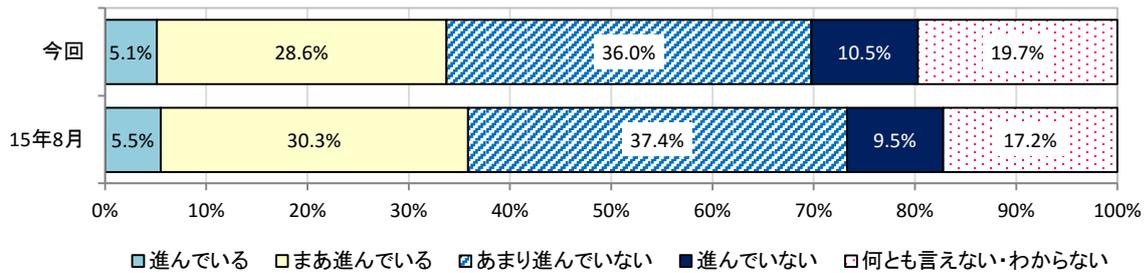
これまでの調査では学部などで異論が多く、期待感も5割以下だった中信が今回は51.8%と、「期待しない」計25.1%を26.7ポイントも上回っている。



◆北陸新幹線延伸の観光対策 「進んでいない」47%で変わらず

北陸新幹線長野—金沢間が開業して1年、新幹線延伸を活用した県内の観光対策が「進んでいる」5.1%、「まあ進んでいる」28.6%を合わせ肯定的な評価は33.7%、「あまり進んでいない」36.0%、「進んでいない」10.5%で46.5%が否定的な評価だ。昨年夏の調査とほぼ同じ数字で、まだ県民に観光対策の具体的な効果が見えていないようだ。

「進んでいる」は沿線の北信(41.9%)、東信(47.6%)でも半数に達せず、北陸新幹線から遠い南信(20.6%)、中信(28.7%)はさらに低い。

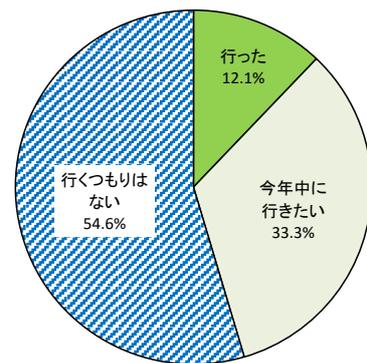


◆北陸・上越へ「行った」12%、「行きたい」33%

ちょうど北陸新幹線長野—金沢開業1年になったので、県民の利用と意欲を聞いてみた。北陸や上越へ「行った」は12.1%、20代(28.0%)、役員・管理職・自由業(29.2%)、北信(20.7%)が多い。

「今年中に行きたい」は33.3%で各層とも30%台が多いが、東信は46.9%と意欲が強い。

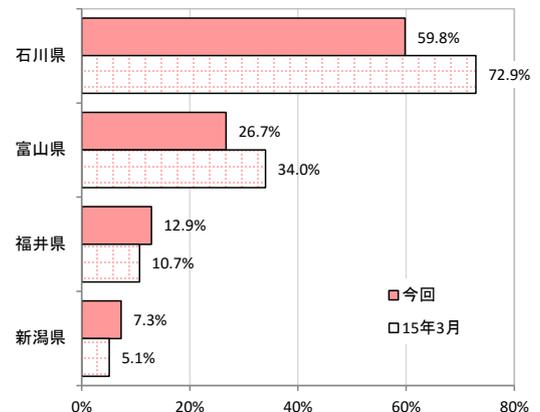
「行くつもりはない」が54.6%、県内5駅まで遠い中南信は6割を超える。



◆行き先は「石川県」が6割

「行った」「今年中に行きたい」と答えた371人に聞いた、その行き先(複数回答)は「石川県」が59.8%、「富山県」26.7%、「福井県」12.9%、新潟県7.3%。石川県人気は男女、年代、職業などを通し共通だ(20代はサンプル数が少ないので参考値だが富山が53.8%でトップ)。

昨年開業直後に聞いた際は、「行きたい」先として石川県が72.9%で断然多かった。今回は福井県がやや伸びている。



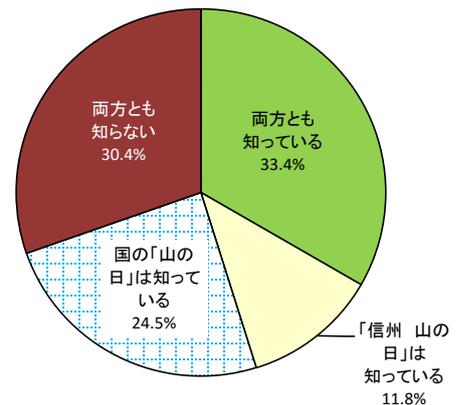
◆「信州 山の日」 祝日の「山の日」 「両方知っている」33%

県が7月第4日曜日に制定した「信州 山の日」と、今年から国民の祝日となる8月11日の「山の日」を山岳観光県長野県民がどの程度熟知しているか聞いた。

「両方とも知っている」33.4%と「両方とも知らない」30.4%がほぼ同じ率だ。「信州 山の日」は知っているが11.8%、「国の山の日」は知っているが24.5%なので、国民の祝日の方が知られている。この結果で計算すると「信州 山の日」を知っているのは45.2%と県民の半数に満たないことになる。

「信州 山の日」については14年4月にも調査、「知っている」のは49%だった。2年経つが周知はいまひとつのようだ。

地域別では中信の「両方知っている」が46.2%で北・東・南信より10ポイント以上高い。松本市民だけを見ると「両方とも知っている」55.2%、「信州 山の日」は知っている4.6%、「国の山の日」は知っている20.7%、「両方とも知らない」19.5%で、国の山の日を75.9%が知っている。8月11日に第1回「山の日記念全国大会」が、松本市の上高地と市街地で開かれることも周知に貢献していると思われる。

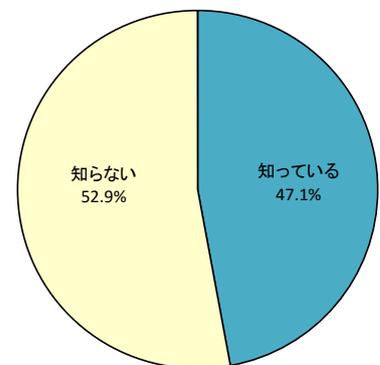


◆全国植樹祭の県内開催 「知っている」47%

第67回全国植樹祭が、6月5日に長野市のエムウェーブで天皇・皇后両陛下をお迎えして記念式典、県内各地で植樹が実施される。1964年以来52年ぶりに県内開催の植樹祭を「知っている」47.1%、「知らない」52.9%と、2ヵ月前にして県民への周知は半数に届かない。

特に50代以下の若い年代は「知らない」が6割以上となっている。

「知っているのは」農・林・漁業が75.8%と断然多い。地域では北信は53.4%と半数超だが、他の3地域は40%台にとどまっている。



(注) 開催1年前の昨年5～6月に実施した「環境と暮らし2015」(長野県環境保全協会と協会の共同調査)では、植樹祭が開催されることを「知っている」26.5%、「知らない」73.2%だった。

「知っている」は20ポイント以上伸びている。